KONARA HOUSE
小形さん宅

自然に寄り添う暮らし

木々のささめき、小鳥のさえずり、
そして庭を駆け回る子どもたちの笑い声……。
都会の喧噪を離れ、自らの手で
森の中に「理想の家」を建てた小形さん夫妻。
多少の不便はあるけれど
豊かな自然に心癒される日々です。

*photo*_Mihoko Ishiguro *text*_Chikako Hayakawa
*edit*_Chisato Tada(PLUS1 Living)

小形さんは大工の克さんと妻・美保子さん、沙羅ちゃん、浩くん、桃ちゃんの5人家族。たまの休日はポーチでブランチをゆっくり味わい、パパお手製のブランコに乗ったり、ボール遊びをしたり……広い庭に家族の楽しげな声が響きます。

屋根と窓と煙突……バージニア・リー・バートンの絵本『ちいさいおうち』から抜け出たような外観は、克さんの理想形。屋根と外壁に用いたウエスタンレッドシダーは年を経るほどグレーを帯びて、周囲の木々にとけ込んでいくそう。

夫婦で住宅設計・施工会社KONARA HOUSEを経営。克さんが建築を、美保子さんが庭とインテリアコーディネートを担当。オリジナルティンバーフレームによる家を紹介したいと、自宅をモデルハウスにしています。
www.konarahouse.jp

VEGETABLE GARDEN
丹精こめて育てた野菜のおいしさは、また格別！

8.帽子をかぶり長靴を履いた美栄子さんに「野良仕事？（笑）」と究さん。庭の菜園ではバジルなどのハーブ類をはじめ、夏にはキュウリ、ナス、オクラなどたくさんの野菜が収穫できます。
9.姫ちゃんも手伝って、シソの残りをお片づけ。「また来年、生えてくる？」

7.家の南側、玄関の手前にスクリーンポーチと呼ばれる半屋外のスペースを設置。屋根はもちろん、周囲にも網戸を張っているので、虫の多い夏も安心。雨の日は子どもたちの遊び場に変わります。8.ぽかぽかの日ざしの中でのブランチはもちろん、星空を眺めながらのディナーも素敵。内でも外でもない空間がもたらす贅沢な時間を味わって。

PORCH LIVING
夫婦水いらずで過ごすリラックスした時間

子どもたちが遊びに行ったら、しばし大人の時間。お茶を飲みながらの会話は「やっぱり子どものこと。あとは二人とも家が大好きなので、仕事のことが多いかな（笑）」。

PORCH DINING
ポーチでのブランチに食も会話も弾んで

9.この日のブランチは染くんが大好きな「ママのラザニア」と、季節の野菜をたっぷり。春は裏の山でタケノコやフキノトウ、田んぼのあぜ道ではセリがとれるとか。「ご近所で無農薬野菜も買えるし、食は豊かですね」

10.ガーデナーとしてもキャリアが長い美栄子さん。クロスに合わせた花のアレンジもお手のものです。庭の花が少ない季節は、地元・茅ヶ崎の花屋さん「TAKE YOU」によく行くそう。

にお引っ越し（笑）」と美栄子さん。

広い庭の奥には、母屋によく似た小さなおうちが。もとはコナラの木の上にあったツリーハウスでしたが、木の保護のため移築。シャビーなコーディネートは、もちろん美栄子さんの手によるもの。2畳ほどの空間ですが、庭の楽しみがまたひとつふえたそうです。「不便なところですが、ここの暮らしは何物にもかえがたい。春は新緑、秋は紅葉、自然は四季折々さまざまな贈り物を届けてくれます」

ご夫妻が一番うれしい贈り物は子どもたちの笑顔、でしょうね。

TREE HOUSE
庭の片隅にもうひとつの小さなおうち

室内は白とブルーで統一。小さなベッドとシャビーなスツール、クッションもたくさん置いて。天井には「サラグレース」のシャンデリア、オランダの「エンゲル」社のポンポンオブジェを。

1.コナラの木の上から移築したツリーハウス。傾斜地を利用し、吊り橋を渡っていく趣向に、すっかりトム・ソーヤ気分です。小さいながらウッドデッキを備え、窓にはアンティークのステンドグラスをあしらうなど、細部にまで凝ったつくりはさすが。「先日はデッキでお食事をしました。キャンドルを灯して、素敵な時間でしたよ」と美栄子さん。2.ウッドフェンスの上には、さらに小さな小鳥のおうち。姫ちゃんいわく「フクロウもいるよ」。3.少し雨を散策しただけで、ドングリがいっぱい！　夏にはカブトムシやクワガタもたくさん来るそうで、子どもたちも季節の贈り物を楽しみにしています。4.ドアもソファも小さな姫ちゃんにぴったりサイズ！「お友達が来たら、ソファでゆっくりするの」と、なんともうらやましい限り。

5.家の正面に、一家を守るように枝を広げるコナラの木。「このあたりは雑木林と竹林でした。造成する際、この木はどうしても残したくて」と究さん。6.アーチ形に剪定したレイランドヒノキの垣根をゴールがわりに、サッカーをするのが男子チームのお楽しみ。

GARDEN
ホストツリーのコナラの木が家族の笑顔を見守って

緑とともに四季を感じて暮らす幸せ

雑木林に囲まれ、別荘地に来たような小形さんのお宅。秋になると庭の落ち葉を片づけたり、暖炉の薪を準備したりと大忙し。それでも「人づきあいは苦手だけれど、自然とつきあうのは苦にならないですね」と究さん。

そんな小形さん一家の休日はスクリーンポーチから始まります。スクリーンポーチとは、欧米でよく見られる半屋外スペースのこと。庭に面した空間にソファやテーブルを置いて、さながら第二のリビング&ダイニングに。「あたたかい季節の休日は、ほぼポーチでブランチかバーベキュー。日が落ちるまでゆっくり過ごします。子どもは冬も庭でおいもやマシュマロを焼くのが好きですが、大人は暖炉の前

LIVING
暖炉の火に照らされて 思い思いに過ごすリビング

1.小上がりになったリビングの床下収納には、浩くんと悠ちゃんのレゴがたっぷり！「しまう場所さえ決めておけば、小さな子どもでもお片づけできます」と美栄子さん。2.自は伸えない？　浩くん設計施工のレゴの家。レゴを始めると、いつも2時間くらい集中して作成する浩くん。ママのウィンコーナーもつくってくれるのだとか。

3.シンプルな埋め込み式の暖炉はデンマークの「ウム」社。薪火は完さんの冬の日課です。暖炉のおかげで停電時も寒くなかったそう。4.アーチ状にデザインしたリビングの小上がりは、暖炉の前の特等席。「ここに座ると動けなくなっちゃう」と美栄子さん。完さんの猫足椅は英国アンティークのウィンザーチェア。暖炉上の絵は、美栄子さんの実家にあった油絵の額をアレンジしたもの。

暖炉の炎に家族が集う冬の一日

ポーチから玄関に入ると、正面にダイニング、右手に黒を基調にしたオープンキッチン、左手に小上がりのリビングが広がります。そして部屋の中心はやっぱり暖炉。「薪ストーブではなく、暖炉にこだわりました。高価でね。新築して2年後にようやく設置できたときは感無量でした。予想以上にあたたかく、なにより火を見ていると心が落ち着きますね」と完さん。

ともするとログハウスのように見えてしまう木組みの家をスタイリッシュに見せているのは、美栄子さんのコーディネート手腕。「コンセプトはモダン・デコです。シンプルすぎる空間は味けないし、かといってゴチゴチと飾りたてるのも好きじゃない。デコラティブな要素は、料理で言ったらスプーン1杯くらいがちょうどいいんじゃないかしら。同じくほんのひとさじ黒をきかせると、インテリアがグッとあか抜けます」

絶妙なさじ加減で味つけされた室内は、どこを見てもすっきり。「自宅兼モデルハウスですから、来客も多い。すべてのものに対して収納場所を確保し、家族全員、出したらしまう、を徹底しています」ときっぱり。買い物は慎重派、気に入っても「うちに合うかどうか」とひと呼吸おいて考えるのが習慣になっているそう。さすがです。

1.ポーチに面した南側にシンクを設置。「食事の準備中も、外の子どもたちの様子が見えて安心」。シンクと黒い水栓金具はアメリカの「コーラー」社。2.オープンシェルフに「見せて収納」する食器は自と決めているそう。3.壁中、人気のランタンタイルと「グローバル」のナイフが見せる機能美の対比も見事！

キッチンは美栄子さんがデザインし、完さん率いる職人さんが施工。「私自身の使い勝手をよくよく考えてつくったので、本当に使いやすい。特に大容量の収納には満足しています。扉が閉めがきちんとあれば散らからないし、お掃除もラク。子どもたちもお手伝いしやすいでしょう」。4.アイランドカウンターでは悠ちゃんがリラグの盛りつけをお手伝い。ときには家族みんなで生地からピザを作るそう。5.ワークトップ下の引き出しには、食器をはじめラップや密閉容器など生活感のあるものをすべて収納。

KITCHEN
「黒」をきかせた スタイリッシュキッチン

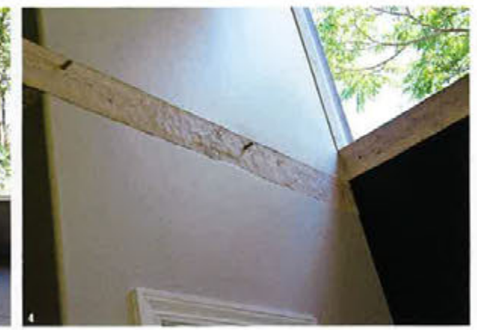
BOOKSHELF
家族みんな、本が大好き！ たくさんの蔵書は色別に収納

「何を読もうかな」と悠ちゃん。色別収納のおかげで、迷う楽しさも味わった本をもとの場所に戻すのも簡単です。

大切な宝のブックシェルフには、建築関係の本や子どもたちの絵本が整然と並んで。4.完さんが大工の道を歩ぶきっかけとなった木彫りの熊。「まだ小さかったけれど、こんな作品を自分で彫ってみたいと思ったんですよね」。5.ランチを待つ間、ほしごでひと休みの浩くん。すぐれた断熱機能と薪ストーブ暖房、暖炉のあたたかさで、冬の中は冷でもシャツ1枚で過ごせるほど。6.サイズも色もさまざまな本の収納は「色別に分けるのがおすすめです」と美栄子さん。

【WINDOW】窓からのぞく木々のこずえが最高のアートピース

窓の外に広がるのは木々の緑と広い空。ビルに囲まれた都会の小さな空とは比べものにならない戯めに、豊かさを感じます。「自然は毎日違った表情を見せてくれて、飽きることがないですね」 1.吹き抜けの廊下を利用したゲストルームの窓からも緑が。2.2階から見下ろすリビング。美しい窓枠はアメリカの「マーヴィン」社。黒いスタンドは「モーダ・エン・カーサ」。3.圧巻の天井高と窓の外に広がる木々の緑に包まれ、まるで森の中にいるようなリビング。「このあたりは落葉樹が多く、夏は生い茂った木の葉が日ざしを遮り、逆に冬は葉が落ちてぬくもりを届けてくれる。何もしなくても快適に暮らせるよう、自然がはからってくれます」と究さん。



4.緑が映える壁の色は、ペンキ屋さんと調合した色。「ベージュでもグレーでもない、あいまいなニュアンスカラーが気に入っています」。和のイメージが強い杉材の梁は白く染色して軽やかに。手斧で削った手跡が、手間ひまをかけてつくっている証。5.バスルームもガラス張り！雑木林を眺めながらのバスタイムは、森林浴気分も満喫できそう。6.ターコイズブルーのタイルと塗り壁が鮮やかなプライベートスペースのトイレ。「洋書で見たブルーのグラデーションのインテリアが忘れられなくて」という美栄子さんのチョイスです。

【LAMP】家族を包むあたたかな明かりの数々

4.ゲストルームのモダンな雰囲気は「マックスレイ」。以前は事務所スペースとして利用していたため、デスクを照らすライトとしてとりつけたものだそう。5.ダイニングの大型照明は「パナソニック」。黒いシェードでキッチンとぴったりリンク。2灯使いに上級センスを感じます。壁際の前の優美なペンダントライトは、「ボウズリー」で出会ったフランスのアンティーク。6.ポーチ正面の照明も「マックスレイ」。小形さんがこの家を建てた5年前、納得のいく照明器具を探すのは至難の業だったそう。「今はKONARA HOUSEでもアメリカの照明を輸入し、お客さまの選択肢をふやしています。一箇一灯ではなく一室多灯。光を楽しむほどにインテリアが美敵に輝きます」

小形さんのお宅で目を奪われるのが、照明使いの素晴らしさ。夜は光源として、光を灯さない日中も美しいオブジェとしてインテリアを彩っています。天井照明だけでなく、間接照明も積極的にとり入れるのが、インテリア偏差値を上げる第一歩。1.テレビボードの両脇を飾るのは、中目黒の照明専門店「ラ・シエネガ」のアンティークランプに「フラマン」のシェードをセットしたもの。デコラティブなランプにすっきりモダンのシェードを合わせるのが小形さん流です。2.訪れる人をあたたかな光で迎える外灯は、アメリカの「キチラー」社。3.ポーチの両脇には日本のデザイン照明の先駆け、「マックスレイ」のブラケットを配して。

【CREATURE】甘さを抑えた動物モチーフで「大人かわいい」空間に

クヌギや野ウサギ、ときにはキジも遊びに来るという小形さんのお宅は、家族そろって動物が大好き。家の中でもあちらこちらで動物モチーフを見かけますが、そこは美栄子さんセレクト。ただかわいいだけじゃない大人のセンスが光ります。1.2階のトイレの壁は「キヤアンティークス」。その上で羽を休める蝶は「フランフラン」で出会ったマグネット。2.同じくトイレの洗面カウンターは「平田タイル」。1枚だけ鹿モチーフのタイルを貼って。3.勝手口のすぐ脇に2つ並んだ赤のアイアンフックは「ダルトン」で購入。曲がり使いの帽子やストール、バッグをかけておくのに便利しているそう。

4.リビングでひときわ目を引く木製のアニマルヘッドは、鎌倉のアンティークショップ「ジョグラール」で。「これはひと目惚れでした。でも私、本当は剥製のアニマルヘッドが欲しいんです」という美栄子さんに対し、「そういうのってかわいそうじゃないですか」とやさしい究さんなのでした。5.1階のトイレのドアを飾るものは、友人から贈られた馬のオブジェ。日本の作家によるハンドメイドで、穏やかな顔つきが印象的。「よくお客さまから譲ってほしいと言われますが、そのたびにお断りしている宝物です」 6.ブックスタンドとして活躍するのは本製の鹿の置物。「どこで買ったのかも忘れてしまいましたが、キモかわいくて手放せないんです(笑)」